

伝統×デザイン 海外客に発信

京の23歳起業、化粧品箱開発

京都の大学でデザインを学んだ男性が卒業後1年足らずで起業し、第1弾商品として化粧品箱を開発した。A4サイズに折りたためるコンパクトさや茶室に着想を得た収納方法、漆器をイメージした配色など、伝統工芸の要素を取り入れた。日本で化粧品を多く買う中国人観光客らに売り込む。男性は「日本の伝統文化の良さを海外に伝えたい」と意気込んでいる。



化粧品のように観音開きにして使う化粧品箱とデザインを手がけた寺井社長。折りたたむとA4サイズになる。手前は組み立てる前の部材(京都市左京区)

デザイン会社アイデアスプラウト(京都市左京区)の寺井俊裕社長(23)。京都工芸繊維大でデザインを専攻し、昨春に卒業。当初はフリーランスのデザイナーとして活動していた。子どもの頃からの夢だった起業が実現した。

現したきっかけは、知人の会社経営者からの依頼だった。日本で薬を大量購入する中国人観光客向けに、薬箱のデザインを任せられた。開発を進めるうちに「化粧品箱にした方が面白い」と方針転換。商品化も自ら手がけることを

蒔絵調、たためて便利

決め、昨年10月に思い切って会社を立ち上げた。製造を手がけてくれる会社も京都市内で探し当てた。

完成品はプラスチックとポリエステルを素材に使用。メーカーシップ時は化粧品台のように観音開きにして使い、持ち運ぶ時や収納時はA4サイズに折りたためる。化粧品やブラシを収めるポケットは茶室の違い棚を参考にデザインし、面ファスナーで使用者の好みに合わせて配置できるようにした。色は漆器を思わせる赤と黒を用い、外側には蒔絵のような金色のツルの絵柄をあしらった。

商品名は心遣いの行き届いた執事を意味する「ケアバトラー(関愛執事)」。寺井社長は「女性が化粧品箱を開いた時に、きょうもがんばろうと思えるデザインを心がけた」と話す。

今後よりサイクル素材を活用した商品やベビー用品、介護用品などを手がける考えで、「日本の伝統工芸の良さを生かしながら、海外でも受け入れられる商品を送り出したい」と言葉に力を込める。

化粧品箱は税込み1万800円。西陣織会館(上京区)や東映太秦映画村(右京区)で販売している。オリジナル仕様の注文も100個から受け付ける。(高野英明)